

事業成果報告書

※下記アドレスにメール添付でご提出ください。

竹村和子フェミニズム基金 <t-fund@npo-ochanomizu.org>

1. 個人または団体名(団体の場合は代表者名も記入)	
宮下美砂子	(代表者名:)
2. 研究または活動のテーマ(課題名)	
いわさきちひろと戦後日本の母親像－画業の全貌とイメージの形成をめぐって－	
3. 助成額	
500,000 円	
4. 実施期間	
2020年 7月 ～ 2021年 6月	
5. 実施状況	
2020年 7月 版元世織書房と最終打ち合わせ 8月～10月 打ち合わせ内容をもとに改稿 11月 最終原稿提出 2021年 3月 初校 4月 再校、三校 5月 四校、表紙打ち合わせ、最終校、色校正 6月 印刷、製本、刊行	
6. 事業成果と自己評価	
<p>貴基金より助成を頂けたことにより、ちひろ美術館からの信頼と協力を得られた。懸念していた図版の掲載について美術館側から比較的スムーズに了承を頂き、必要最低限の図版は本書に収めることができた。当初の計画通り、いわさきちひろの画業を従来とは異なるジェンダーの視点から本格的に再検討する初めての資料となったと思われる。外部からの評価についてはこれからであるが、出版という事業を通し、これまで論文という形態でしか発表できなかった研究成果を、より広い範囲の読者に向けて発信することが可能になった。本書で考察したいわさきの作品制作の実態を通し、高度成長期における性別役割分業の浸透と固定化、母親運動や反戦運動などといった社会運動で結ばれる女性たちの連帯、働く母親の増加といった戦後の日本社会のジェンダーのあり方を照射できたと考える。いわさきの「母性」の固定化したイメージは、女性たちの多様な立場に巧みに寄り添う媒体の選択、作品づくりによって確立したものだという従来とは異なる実態を示すことで、現代社会にも温存するジェンダーの不均衡から発生する問題についても考える契機となったと思う。2021年7月31日に近現代女性史研究会にて、本書の内容に沿った研究発表をすることとなっている。</p>	
7. 提出成果物	
書籍『いわさきちひろと戦後日本の母親像－画業の全貌とイメージの形成－』世織書房	